

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	三重県	市町村名	四日市市	大学名	
派遣日	令和6年7月1日(月曜日) 9:00~12:00 1限目 9:00~9:30 事前打ち合わせ 2限目 9:40~10:25 授業参観① 1年生道德 6年生社会 3限目 10:35~11:20 授業参観② 国際教室(1年生 国語) 4限目 11:30~12:00 講評				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
派遣場所	四日市市立笹川小学校				
アドバイザー氏名	文部科学省 外国人児童生徒等 教育アドバイザー 市川 昭彦				
相談者	四日市市教育委員会指導課 指導第1係 四日市市立笹川小学校 校長・教頭・国際教室担当教諭				
相談内容	在籍学級におけるJSLカリキュラムに基づいた授業づくりについて ① 在籍学級での教科型日本語指導の方法及び支援の在り方 ② 国際教室と在籍学級との連携 ③ 国際学級で実施している初期指導と教科型日本語指導の方法を、在籍学級へどのように取り入れていくか				
派遣者からの指導助言内容	当日は、1年生「特別の教科 道德」と6年生「社会科」の在籍学級での参観及び国際教室(1年生 国語)を参観していただき、その後市川アドバイザーより管理職・国際教室担当・教育委員会指導課へ助言をいただいた。 ① 在籍学級での教科型日本語指導の方法及び支援の在り方 当日参観した1年生及び6年生の在籍学級における授業を、JSL5支援の観点で意味づけ・価値づけをしていただいた。 【理解支援】 ・ 写真や図を示す際に、教師がICTを適宜活用していた。 ・ 子ども達の理解促進のために、教師が具体的な例を示していた。 ・ 資料に記載されている絵を、児童が知っているものに例えながら、教師が解説していた。 【表現支援】 ・ 子ども達が表現したい内容を、対話を通して自分達で引き出そうとしていた。 ・ 子どもが教師から明示された資料を使って、説明をしていた。 【情意支援】 ・ 子どもの発言に対して、周りの子が「確かにそうだ」と共感する場面が見られた。 ・ 教師が子どもの意見を丁寧に受け入れる姿が見られた。				

	② 国際教室と在籍学級との連携 ・ 笹川小学校では、令和6年度より、4～6年生の外国人児童全員を対象に、日本語能力の把握するための簡単な日本語レベルチェックを実施している。特に取り出しを行っている日本語指導が必要な児童の結果においては、どこにつまずきが見られたのかを国際教室と在籍学級で情報共有しながら、授業改善に活かしていく。 ・ コロナ禍のため、機会を設けていなかった保護者懇談会を実施する中で、保護者の思いや願いを共有した上で、外国人児童の指導支援にあたることが大切である。 ・ 日本語が「できない」ではなく、「わからない」だけであるという視点で、日々日本語学習を行っている外国人児童に対して、在籍学級においても他者と頑張りを共有し、児童の自己肯定感を育めるような人間関係づくりに努める。また、教師が率先して、児童の姿を認めていくことで、日本語学習のみならず、教科学習に対する学ぶ意欲にもつなげていく。 ③ 国際学級で実施している初期指導と教科型日本語指導の方法を、在籍学級へどのように取り入れていくか ・ 子どもが学習の見通しをもてるよう、一時間の授業の流れを可視化する。 ・ 子どもへの教師の話し方を工夫する。(やさしい日本語を意識して、発問や指示等、短いセンテンスでわかりやすく話す。) ・ 在籍学級において初期指導体制を充実させていくためにも、児童の頑張りを「見える化」したり、成果を細かく認めていったりすることで、児童の学ぶ意欲につなげていく。 ・ 掲示物を充実したり、既習内容にいつでも戻れたりできるよう、児童が自ら学んでいけるような環境づくりを構築していく。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	・ 国際教室におけるJSL5支援を取り入れた実践を、在籍学級の指導にも生かしていくために、研修会等で周知していく。 ・ 「これは何ですか」等、在籍学級の中で教師が子どもに対して使う発問等については、抽象的なものではなく、より具体的な言葉を用いて問いかけていく。 ・ JSL5支援が、外国人児童生徒が在籍している全ての学校で活用していけるよう、夏の担当者研修会等で周知していく。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。